

鷺浦町活性化計画

平成26(2014)年3月

鷺浦町内会

(鷺浦町地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	島の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	2
3	道路・交通	4
4	主要公共公益施設	4
2 章	島の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	6
1	島内住民（16歳以上）	6
2	小学生（4～6年生）・中学生	15
3	島外に住み・島内で働いている人	17
3 章	島の魅力・資源と問題点・課題	21
1	島の魅力・資源	21
2	島の問題点・課題	23
4 章	島の活性化計画	24
1	島の将来像	24
2	島づくりの基本方針	26
3	島づくりの基本計画	27
4	計画の推進体制	35
資料	計画策定の経緯	36

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

鷺浦町は佐木島、小佐木島などの島で構成され、島の活性化を図るために、平成2(1990)年から「トライアスロンさぎしま大会」を開催するなど、様々な活動に取り組んでいますが、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、町内会活動の担い手不足、公共公益施設の減少、島の基幹産業である農業の低迷など、島の活力が低下してきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの島のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して島の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、鷺浦町内会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、「鷺浦町活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「鷺浦町活性化計画」は、鷺浦町内会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで島づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、鷺浦町出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

鷺浦町内会では、各種団体の代表者などとともに「鷺浦町地域計画策定委員会」を設置し、「鷺浦町活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、島内住民(16歳以上)、小学生(4～6年生)・中学生、島外に住み・島内で働いている人へのアンケート調査の実施、町内全住民を対象としたワークショップ(意見交換会)を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成26(2014)～30(2018)年度までの5年間とします。

1章 島の概要

1 位置・面積

鷺浦町（以下「島」といいます。）は瀬戸内海に位置する佐木島，小佐木島などの島で構成されており，三原市中心部の南海上に位置しています。

本島の中心になる佐木島は，面積8.72km²，周囲18.2km，中央に大平山（267m）と狗山（いぬやま：251m）の二つの山があります。海岸線は変化に富み，海水浴が楽しめる白砂の浜や磯釣りのポイントも点在しています。特に，北部の大野浦海岸や柄鎌（えがま）瀬戸は自然海浜保全地区に指定されており，景観が保護されています。また，小佐木島は，佐木島の北に近接して位置し，面積0.5km²，周囲3.2kmの小さな島です。

三原市中心部とは航路で連絡しており，三原港～佐木港の所要時間は旅客船で12～13分，フェリーで25分，三原港～向田港はフェリーで35分，三原港～小佐木港は旅客船で14分です。島とはいえ，三原市の中心部に近い立地条件にあります。

2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

島の総人口を国勢調査で見ると，平成22(2010)年で831人になっており，過去5年間で約15%減少しています。

年齢3区分別人口をみると，平成22(2010)年で0～14歳28人，15～64歳349人，65歳以上454人になっており，高齢化率は約55%と5割を超えています。

過去5年間で各年齢ともに減少していますが，0～14歳人口の減少割合が著しくなっています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減		
			実数	割合	
実数	合計	978	831	△147	△15.0
	0～14歳	48	28	△20	△41.7
	15～64歳	456	349	△107	△23.5
	65歳以上	474	454	△20	△4.2
割合	0～14歳	4.9	3.4		
	15～64歳	46.6	42.0		
	65歳以上	48.5	54.6		

注：資料は，国勢調査。

(2) 世帯数の動向

島の世帯数を国勢調査で見ると，平成22(2010)年で399世帯になっており，過去5年間で34世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.08人になっており，過去5年間で0.18人減少しています。

表2 世帯数などの推移 (単位：世帯，人)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減
世帯数	433	399	△34
世帯人員	2.26	2.08	△0.18

注：資料は，国勢調査。

(3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成30(2018)年で約610人、平成35(2023)年で約490人になり、平成22(2010)年と平成35(2023)年と比較すると約340人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成35(2023)年の人口を比較すると、0～14歳で28人が9人、15～64歳で349人が130人、65歳以上で454人が350人になり、各年齢ともに減少するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成30(2018)年で約66%、平成35(2023)年で約72%になるものと見込まれます。

図1 年齢3区分別人口推計

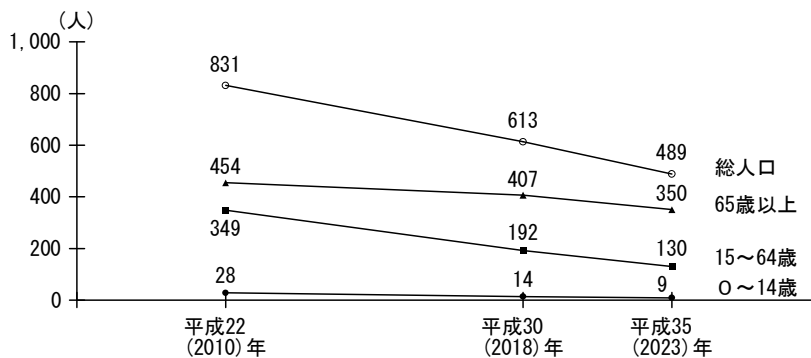


図2 年齢3区分別人口割合

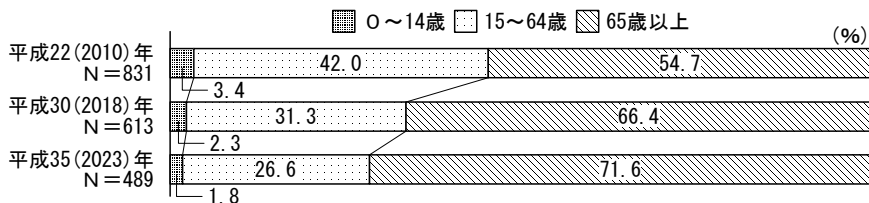
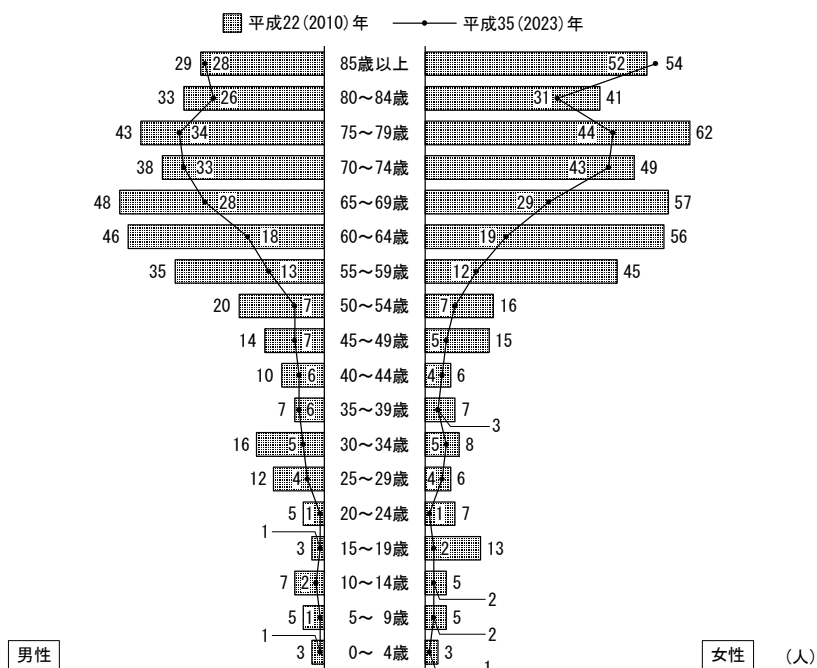


図3 男女別5歳階級別人口



3 道路・交通

道路網は、(一)佐木島線が佐木島を循環して走り、島内の骨格道路になっています。

また、佐木島には、佐木港、須ノ上港、向田港の3港があり、三原内港、尾道港、瀬戸田港、重井港及び土生港と連絡しています。小佐木島には、小佐木港があり、三原内港と瀬戸田港を連絡しています。

佐木島の島内交通としては、小学校のスクールバスを活用して佐木島循環バスが運行されていますが、土・日曜日、祝日は運行されていません。

4 主要公共公益施設

佐木島、小佐木島の主要な公共公益施設は、佐木区、須ノ上区、向田区の3区に分散して配置されています。

表3 島の公共公益施設

島	区分	名称
佐木島	教育施設	・鷺浦小学校 ・鷺浦幼稚園
	文化集会施設	・鷺浦コミュニティセンター
	医療・介護施設	・かもめ診療所 ・三原市デイサービスセンターさぎうら
	その他	・三原警察署鷺浦駐在所 ・三原鷺浦郵便局 ・JA三原鷺浦出張所 ・JA三原鷺浦営農生活センター
小佐木島	文化集会施設	・小佐木公民館

図4 島の道路・交通, 主要公共公益施設



2章 島の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

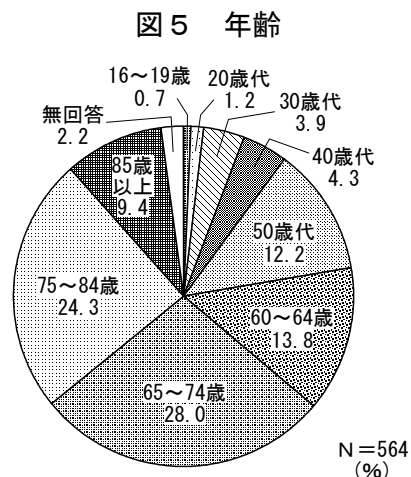
本調査は、島内住民（16歳以上）、小学生（4～6年生）・中学生及び島外に住み・島内で働いている人の幅広い意見を把握し、「鷺浦町活性化計画」の策定に反映するために行いました。

調査票の回収状況は、島民（16歳以上）564件、小学生（4～6年生）・中学生7件、島外に住み・島内で働いている人25件でした。

1 島内住民（16歳以上）

(1) 回答者の年齢

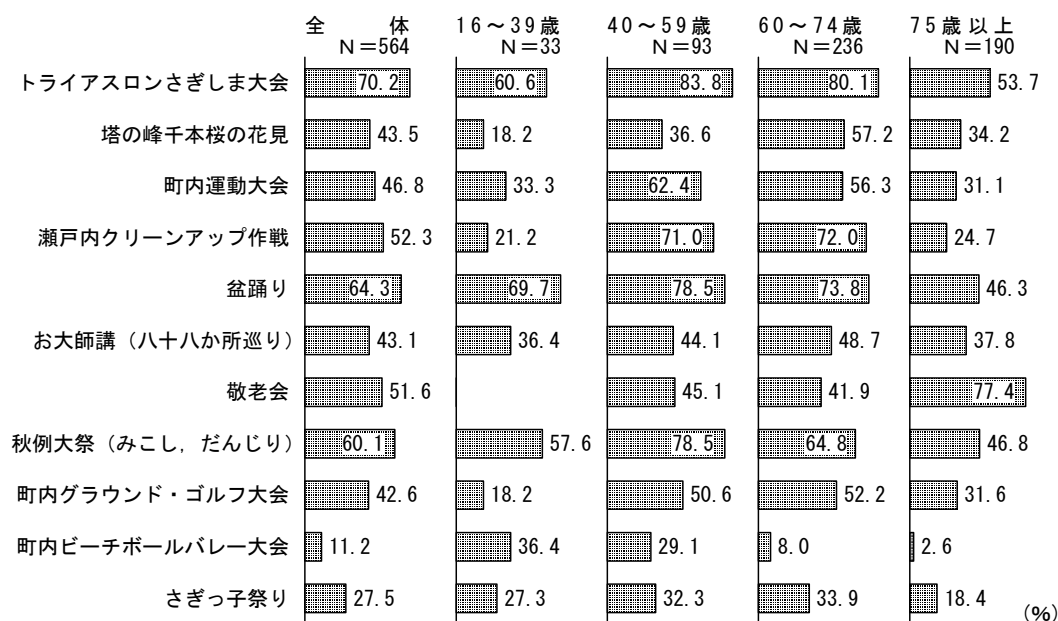
回答者の年齢は、16～39歳5.8％、40～59歳16.5％、60～74歳41.8％、75歳以上33.7％で、60歳以上の人が約3/4を占めています。



(2) 行事や活動への参加状況

島の行事や活動へ参加している人（「ほぼ参加」、「時々参加」を合わせた割合）をみると、「トライアスロンさぎしま大会」が70.2％で最も割合が高く、次いで「盆踊り」64.3％、「秋例大祭（みこし、だんじり）」60.1％の順で、これら3項目の割合が高くなっています。その他では「瀬戸内クリーンアップ作戦」52.3％、「敬老会」51.6％、「町内運動大会」46.8％、「塔の峰千本桜の花見」43.5％、「お大師講（八十八か所巡り）」43.1％、「町内グラウンド・ゴルフ大会」42.6％などの順です。

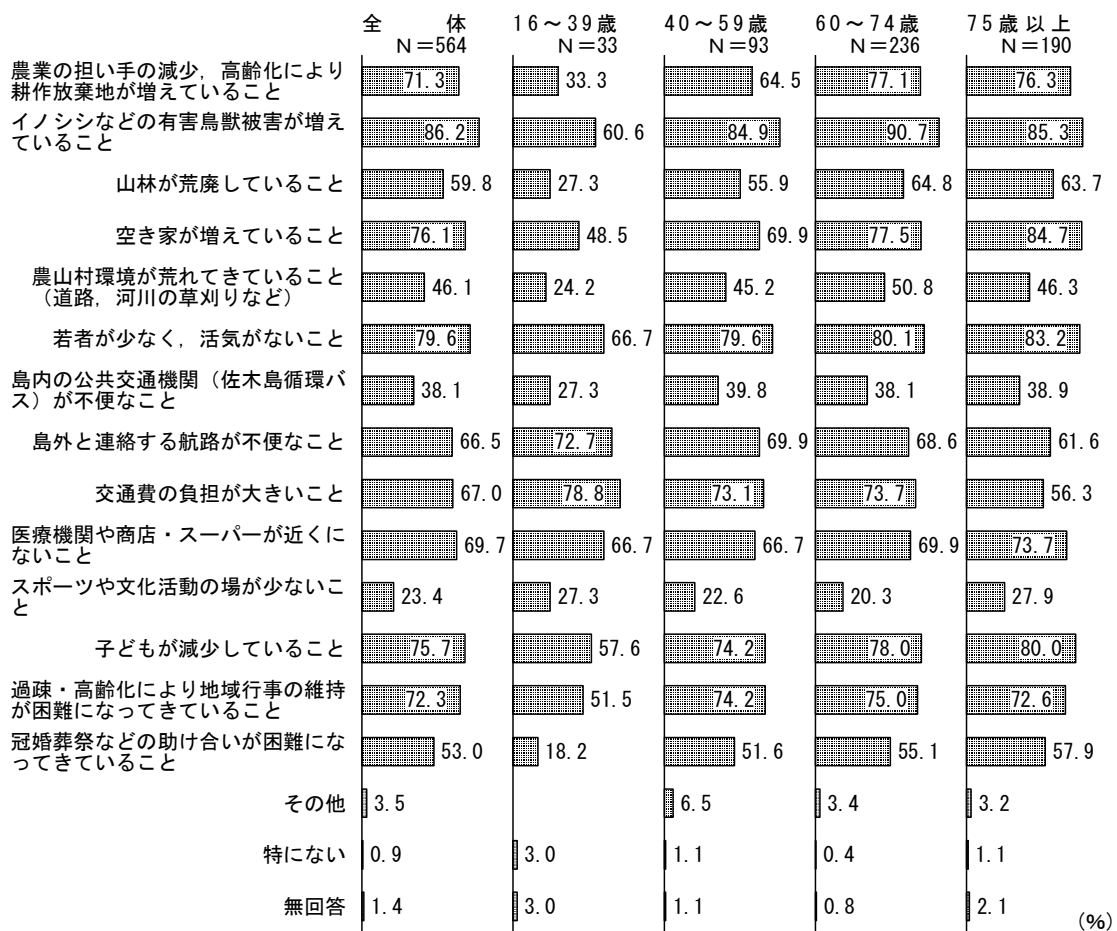
図6 行事や活動への参加状況



(3) 島の現状や将来のことで不安に思っていること

島の現状や将来のことで不安に思っていることの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」を挙げた人が86.2%で最も割合が高く、唯一80%を超えています。次いで「若者が少なく、活気がないこと」79.6%、「空き家が増えていること」76.1%、「子どもが減少していること」75.7%、「過疎・高齢化により地域行事の維持が困難になってきていること」72.3%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」71.3%の順で、これらの5項目が70%台になっています。その他では、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」69.7%、「交通費の負担が大きいこと」67.0%、「島外と連絡する航路が不便なこと」66.5%、「山林が荒廃していること」59.8%、「冠婚葬祭などの助け合いが困難になってきていること」53.0%などの順で、15項目中11項目が50%以上になっており、様々な不安を抱えていることが伺えます。

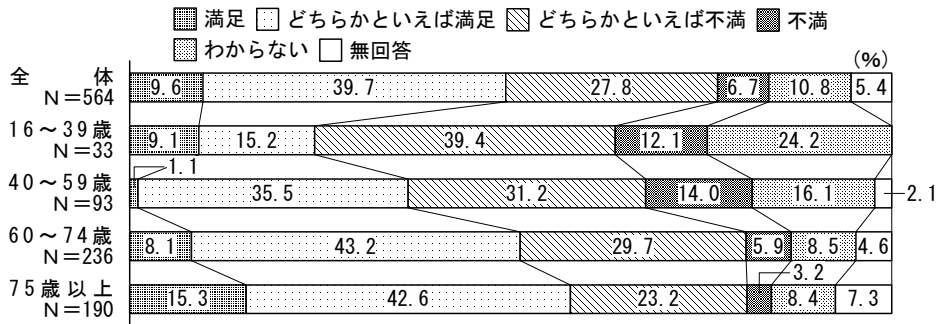
図7 島の現状や将来のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(4) 島の住みやすさの評価

島の住みやすさについては、「満足」9.6%、「どちらかといえば満足」39.7%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は49.3%です。

図8 島の住みやすさの評価

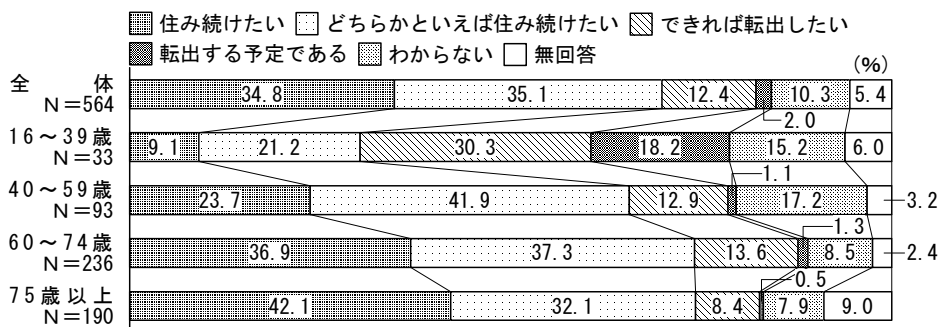


(5) 島への今後の居留意向とその理由

ア 島への今後の居留意向

島への今後の居留意向は、「住み続けたい」34.8%、「どちらかといえば住み続けたい」35.1%で、これらを合わせた島へ住み続ける意向の人は69.9%です。

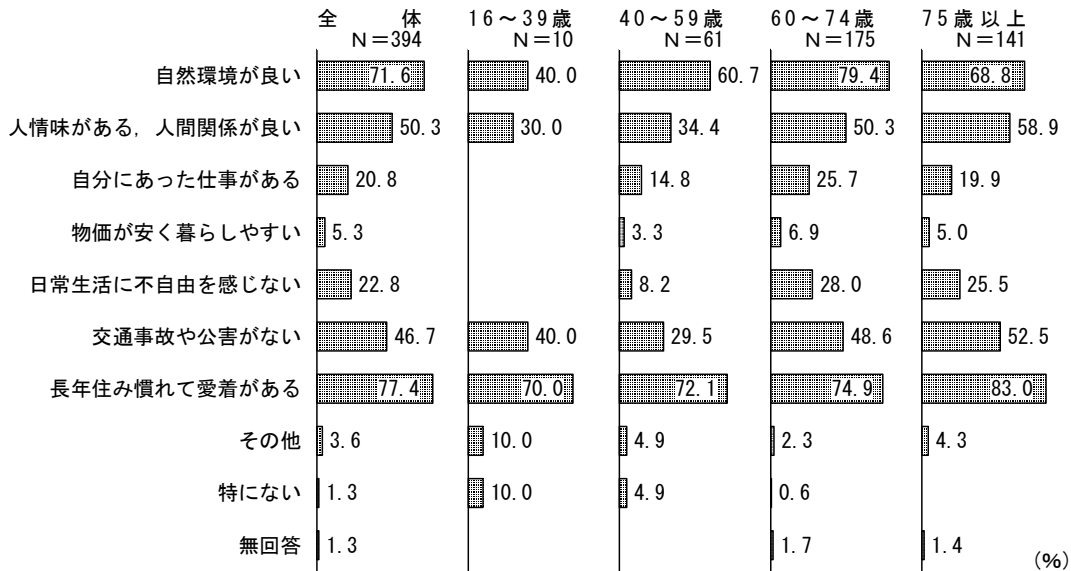
図9 島への今後の居留意向



イ 島に住み続けたいと思う理由

島に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由としては、「長年住み慣れて愛着がある」を挙げた人が77.4%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」71.6%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「人情味がある，人間関係が良い」50.3%，「交通事故や公害がない」46.7%などの順です。

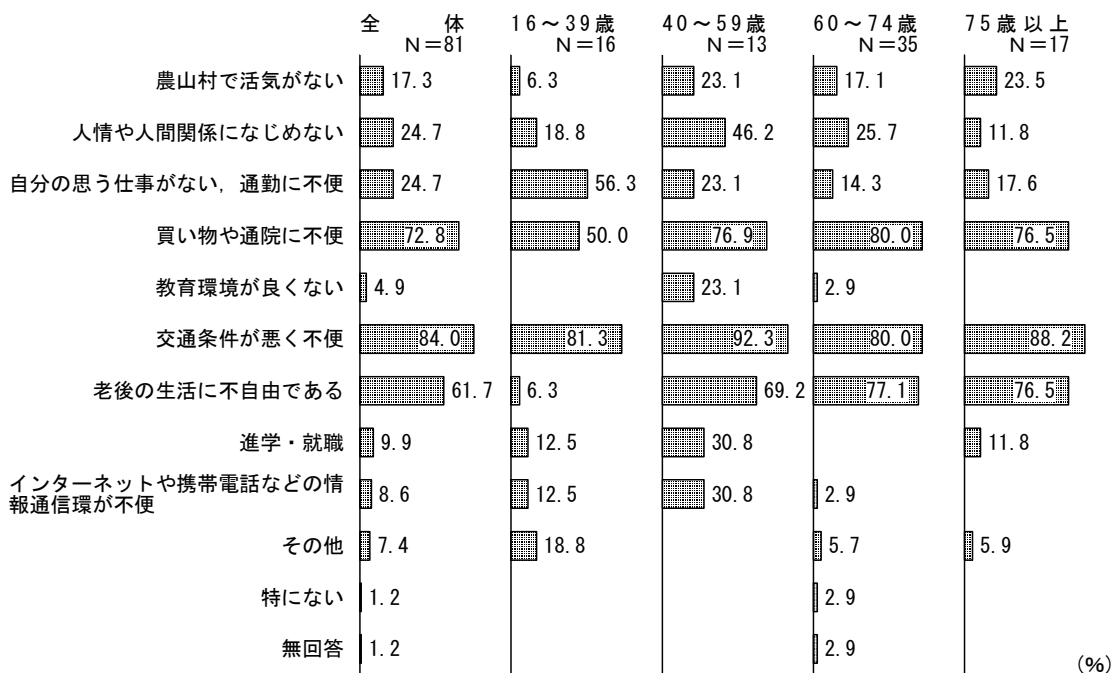
図10 島に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



ウ 島を転出したいと思う理由

島を転出する意向のある人の転出したいと思う理由としては、「交通条件が悪く不便」を挙げた人が84.0%で最も割合が高く、次いで「買い物や通院に不便」72.8%，「老後の生活に不自由である」61.7%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図11 島を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



(6) 今後の島づくりについて

ア 島で大事にしたい、活用したい資源

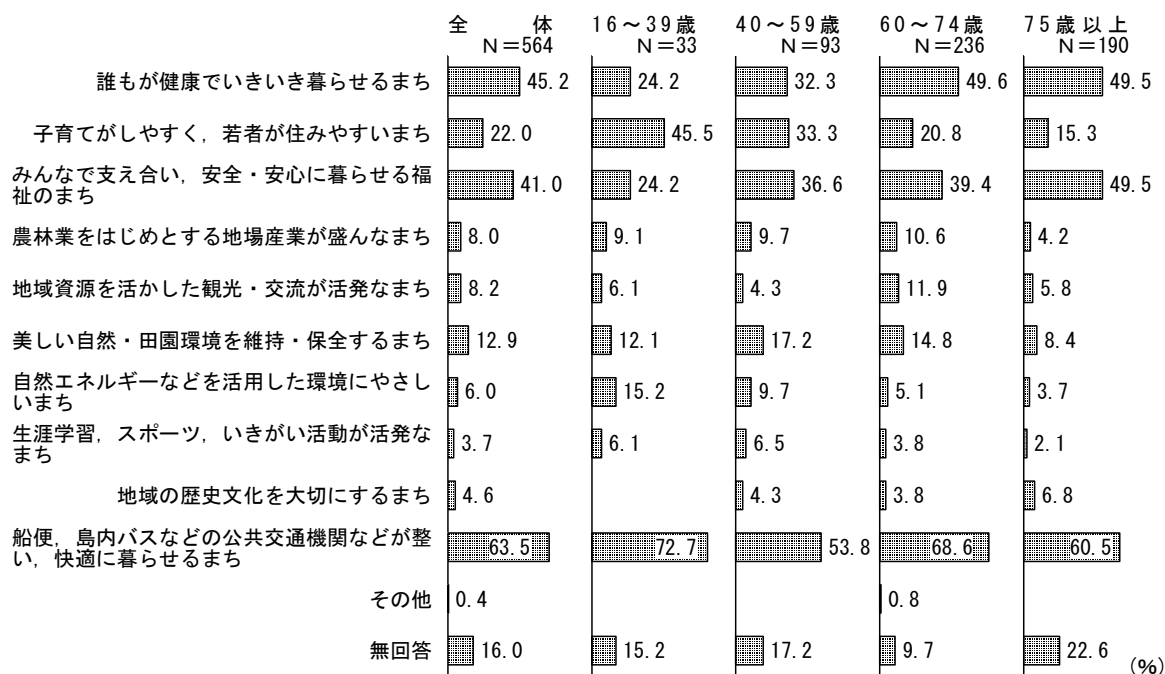
島で大事にしたい、活用したい資源として564件の意見が挙げられており、その内容は自然資源227件、歴史文化資源125件、農産物・特産品118件、施設など82件、その他12件です。

具体的に挙げられた資源をみると、自然資源では「海」65件、「塔の峰千本桜」57件、「大平山」34件、「宿弥島」19件、歴史文化資源では「磨崖和霊石地蔵」41件、「島内八十八か所」26件、特産品では「柑橘」50件、「メロン」22件、「わけぎ」19件、施設などでは「さぎしまセミナーハウス」21件、「さぎしまふるさと館」18件、「港の丘公園」14件などとなっています。

イ 島の将来像

島の将来像は、「船便、島内バスなどの公共交通機関などが整い、快適に暮らせるまち」を挙げた人が63.5%で最も割合が高く、次いで「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」45.2%、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」41.0%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」22.0%、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」12.9%などの順です。

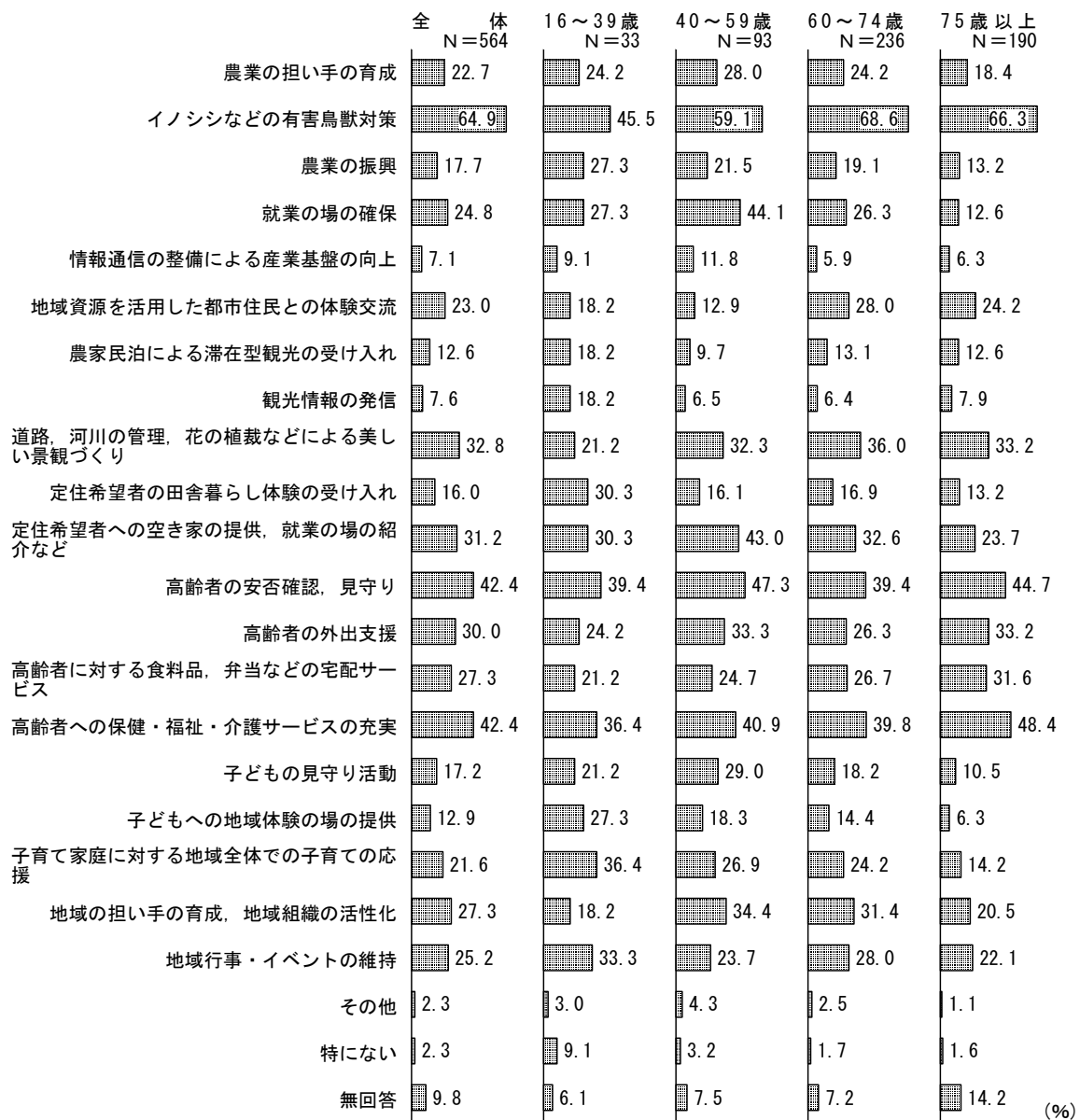
図12 島の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣対策」を挙げた人が64.9%で最も割合が高く、次いで「高齢者の安否確認、見守り」及び「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」42.4%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」32.8%、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」31.2%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「高齢者の外出支援」30.0%、「高齢者に対する食料品、弁当などの宅配サービス」及び「地域の担い手の育成、地域組織の活性化」27.3%、「地域行事・イベントの維持」25.2%、「就業の場の確保」24.8%、「地域資源を活用した都市住民との体験交流」23.0%、「農業の担い手の育成」22.7%、「子育て家庭に対する地域全体での子育ての応援」21.6%などの順です。

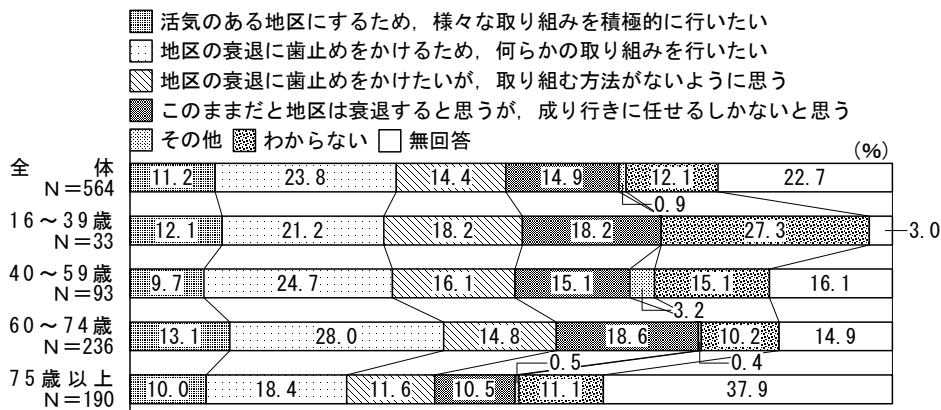
図13 島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



エ 島の活性化に向けた取り組みの意向について

島の活性化に向けた取り組みの意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」11.2%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」23.8%で、これらを合わせた地区の今後について何らかの取り組みをしたいと考えている人は35.0%です。

図14 島の活性化に向けた取り組みの意向

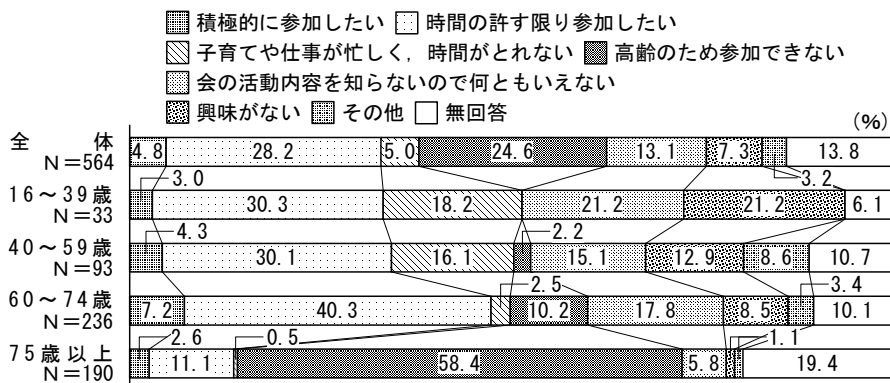


オ 町内会活動への参加について

町内会活動への参加については、「積極的に参加したい」4.8%、「時間の許す限り参加したい」28.2%で、これらを合わせた町内会活動へ参加意向のある人は33.0%です。

年齢別に町内会活動への参加意向のある人をみると、60~74歳が47.5%で最も割合が高く、次いで40~59歳34.4%、16~39歳33.3%、75歳以上13.7%の順です。

図15 町内会活動への参加意向



(7) 農地の耕作状況について

世帯主であると答えた人で、農地を「所有している」と答えた人は59.8%です。

ア 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「30 a (3反)未満」と答えた人が29.9%で最も割合が高く、次いで「50 a (5反)～100 a (1町)未満」及び「100 a (1町)～200 a (2町)未満」24.1%、「30 a (3反)～50 a (5反)未満」16.1%などの順です。

イ 耕作していない農地の割合

「耕作していない農地はない」と答えた人は7.5%です。

一方で、耕作していない農地がある人は85.6%で、その内訳は、農地の1～3割程度27.0%、農地の4～5割程度17.2%、農地の6～9割程度27.0%、「農地の全部」14.4%です。

図16 農地の所有面積

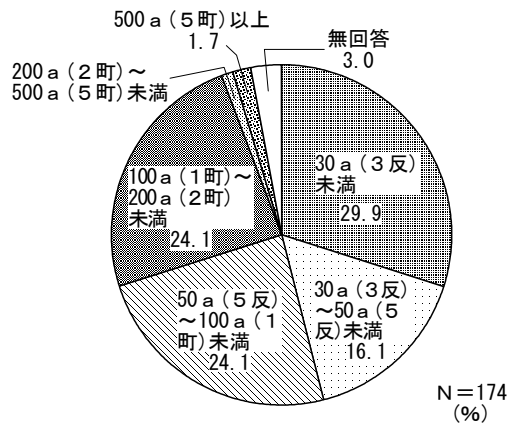
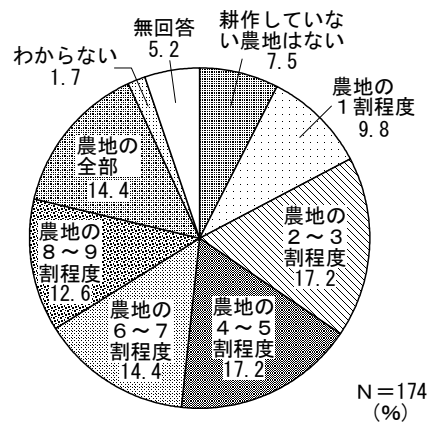


図17 耕作していない農地の割合



ウ 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」と答えた人が60.9%で最も割合が高く、次いで「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」18.4%、「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」7.5%、「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」6.9%の順です。

エ 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」と答えた人が33.9%で約1/3を占めています。農産物を販売している人の販売先は、「JAへ出荷している」が48.9%でほとんどを占めているほか、「島内の農産物直売所で販売している」6.9%、「道の駅で販売している」2.3%です。

オ 農地の今後の耕作意向

農地の現在の耕作状況において、「家族で耕作している」と答えた人は60.9%と最も割合が高くなっていますが、農地の今後の耕作意向において「今後も家族で耕作する」と答えた人は36.2%となっており、今後、6割程度まで減少することが見込まれます。

一方で、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」7.5%、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」4.0%、「耕作をやめる」18.4%、「わからない」27.0%になっており、農地を管理する新たな受け皿が求められています。

図18 農地の現在の耕作状況

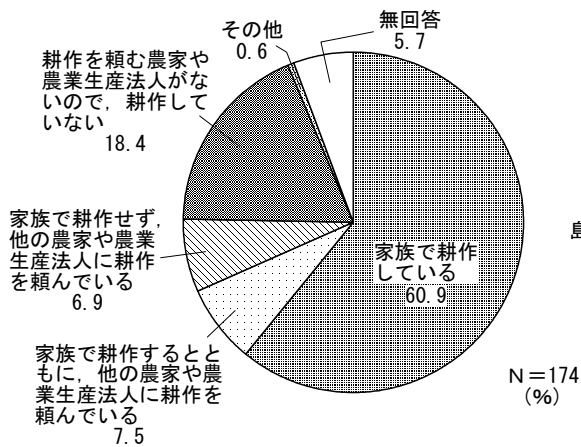


図19 農産物の販売状況

(複数回答：いくつでも)

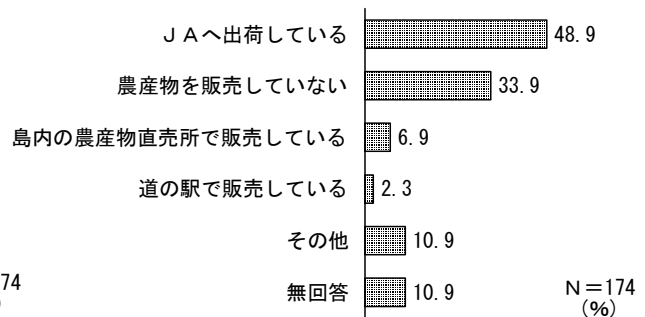
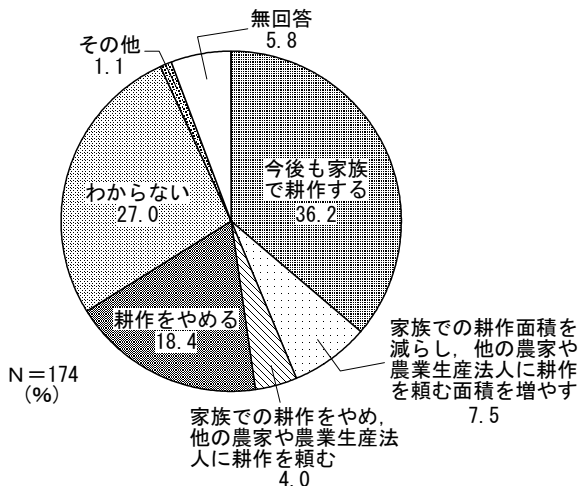


図20 農地の今後の耕作意向



2 小学生（4～6年生）・中学生

回答した7人は、小学生（4～6年生）57.1%（4人）、中学生42.9%（3人）です。

(1) 今後の地域づくりについて

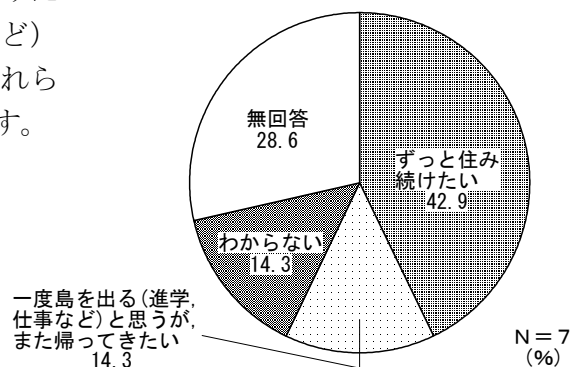
ア 島のすばらしいところ

島のすばらしいところは、塔の峰千本桜、海水浴場などの自然資源、島の特産品（みかん、メロン、わけぎ）、磨崖和霊石地藏などの歴史文化資源が挙げられています。

イ 島への今後の居住意向

島への今後の居住意向は、「ずっと住み続けたい」42.9%、「一度島を出る（進学、仕事など）と思うが、また帰ってきたい」14.3%で、これらを合わせた島へ居住する意向の人は約6割です。

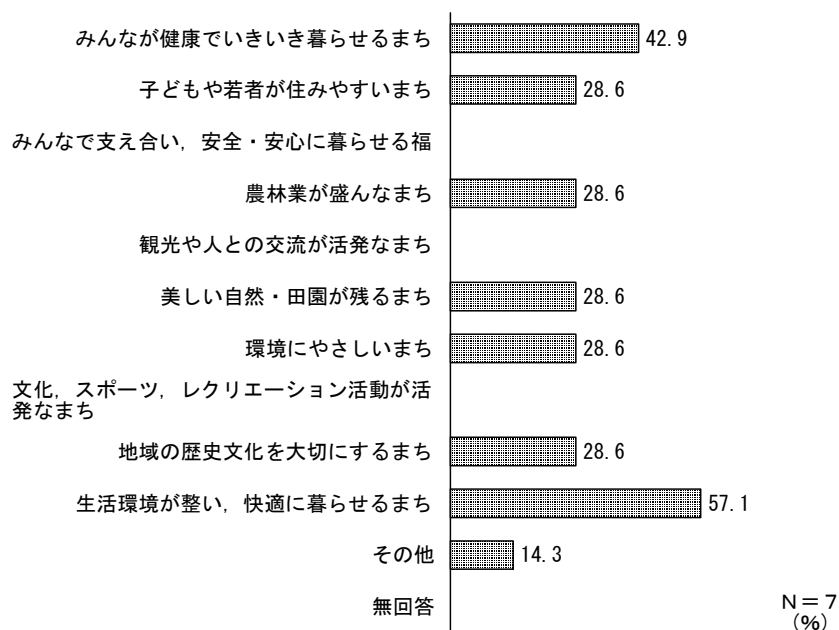
図21 島への今後の居住意向



ウ 島の将来像

島の将来像は、「生活環境が整い、快適に暮らせるまち」57.1%、「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」42.9%で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

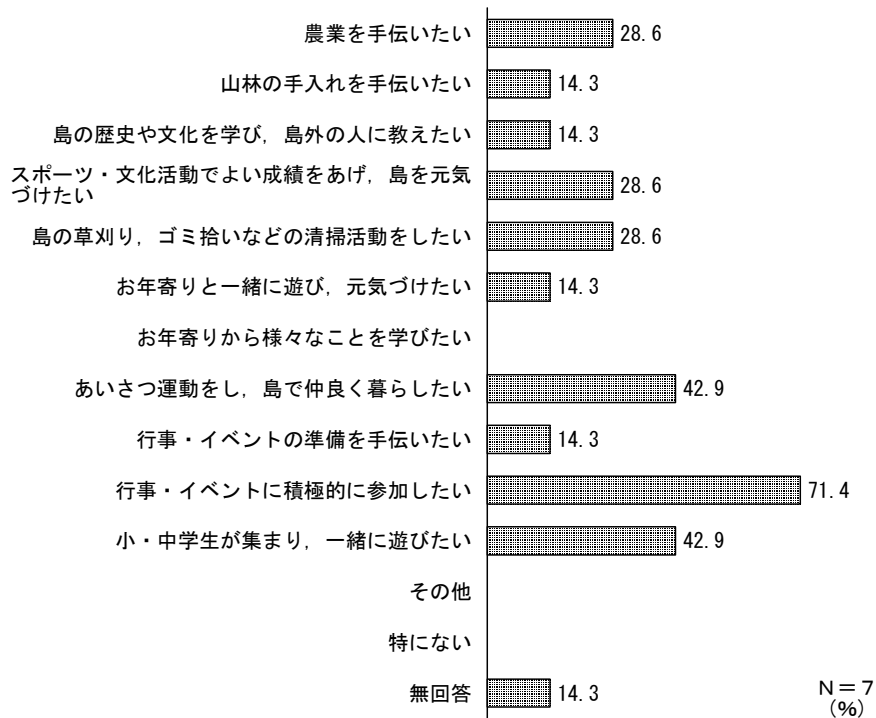
図22 島の将来像（複数回答：3つ以内）



エ 島を住みよくするためにしたいこと

島を住みよくするためにしたいこととしては、「行事・イベントに積極的に参加したい」を挙げた人が71.4%で最も割合が高く、次いで「あいさつ運動をし、島で仲良く暮らしたい」及び「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」42.9%などの順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図23 島を住みよくするためにしたいこと（複数回答：3つ以内）



(2) 好きな行事

好きな行事は、「秋例大祭（みこし、だんじり）」、「さぎっ子祭り」、「盆踊り」、「町内運動会」などが挙げられています

表4 好きな行事（複数回答：いくつでも）

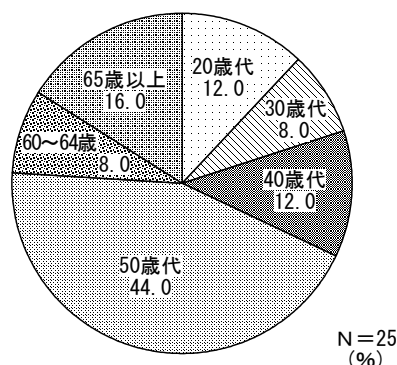
行事	件数(件)
秋例大祭（みこし、だんじり）	6
さぎっ子祭り	4
盆踊り	4
町内運動大会	2

3 島外に住み・島内で働いている人

(1) 回答者の年齢

年齢は、「50歳代」が44.0%で最も割合が高く、次いで「65歳以上」16.0%、「20歳代」及び「40歳代」12.0%、「30歳代」及び「60～64歳」8.0%の順です。

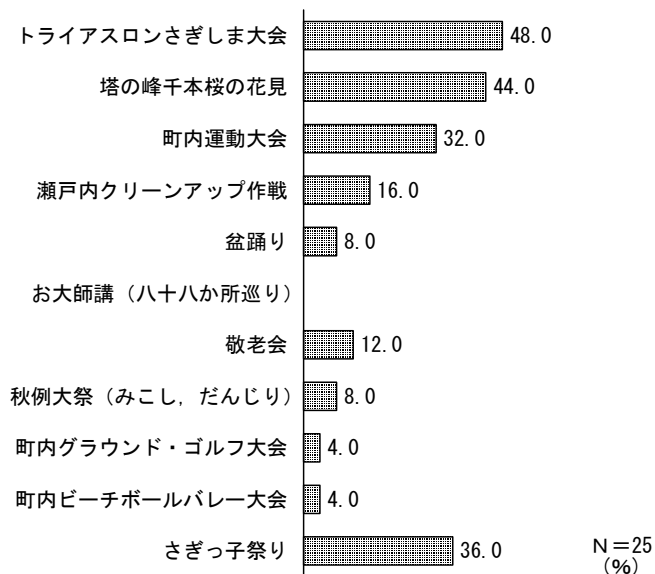
図24 年齢



(2) 行事や活動への参加状況

行事や活動への参加状況（「ほぼ参加」、「時々参加」を合わせた割合）は、「トライアスロンさぎしま大会」が48.0%で最も割合が高く、次いで「塔の峰千本桜の花見」44.0%、「さぎっ子祭り」36.0%、「町内運動大会」32.0%などの順です。

図25 行事や活動への参加状況

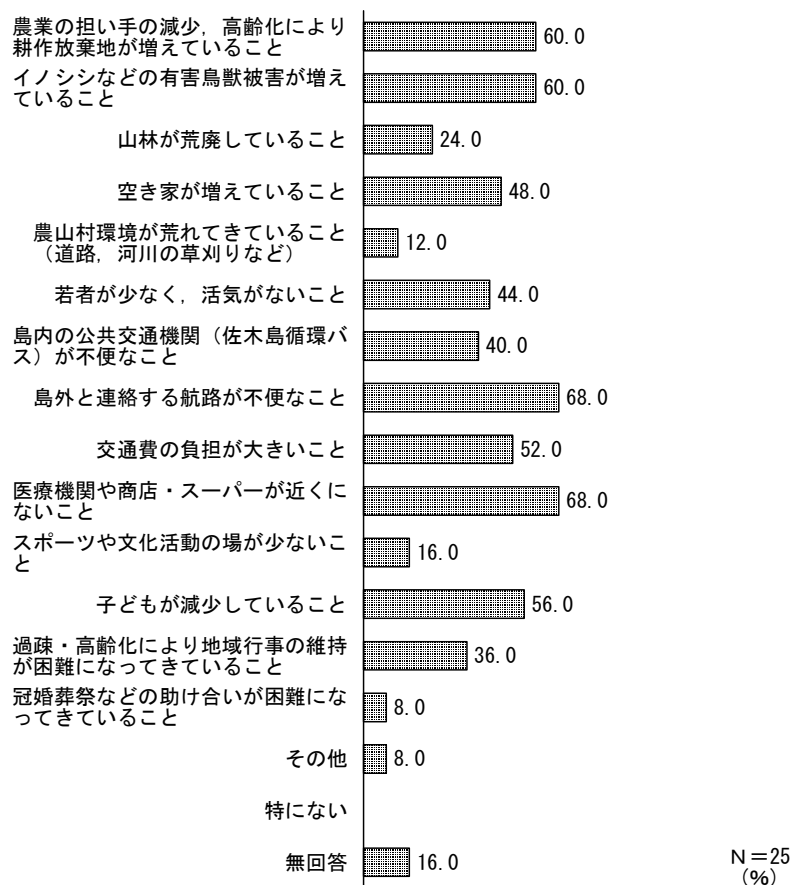


(3) 島の現状や将来のことで不安に思っていること

島の現状や将来のことで不安に思っていることがあると答えた人の内容は、「島外と連絡する航路が不便なこと」及び「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」を挙げた人が68.0%で最も割合が高く、次いで「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」及び「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」60.0%、「子どもが減少していること」56.0%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「交通費の負担が大きいこと」52.0%、「空き家が増えていること」48.0%、「若者が少なく、活気がないこと」44.0%、「島内の公共交通機関（佐木島循環バス）が不便なこと」40.0%、「過疎・高齢化により地域行事の維持が困難になってきていること」36.0%などの順です。

図26 島の現状や将来のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(4) 今後の地域づくりについて

ア 島で大事にしたい、活用したい資源

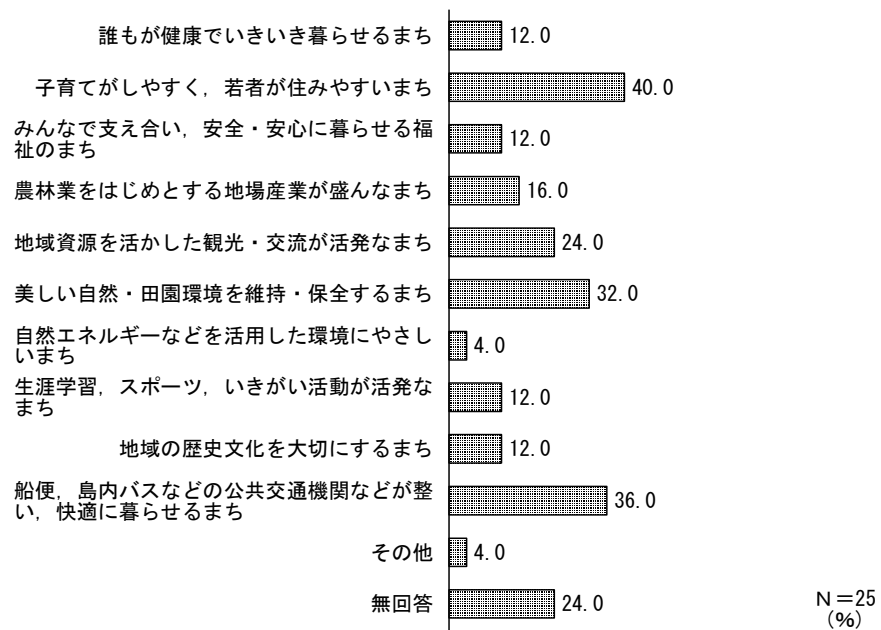
島で大事にしたい、活用したい資源として53件の意見が挙げられており、その内訳は農産物・特産品及び自然資源19件、歴史文化資源8件、施設など4件、その他3件です。

資源の具体的な内容をみると、農産物・特産品では柑橘、メロン、わけぎ、自然資源では塔の峰千本桜、大野浦海水浴場などが挙げられています。

イ 島の将来像

島の将来像は、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」を挙げた人が40.0%で最も割合が高く、次いで「船便、島内バスなどの公共交通機関などが整い、快適に暮らせるまち」36.0%、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」32.0%などの順で、これら3項目の割合が高くなっています。

図27 島の将来像（複数回答：3つ以内）

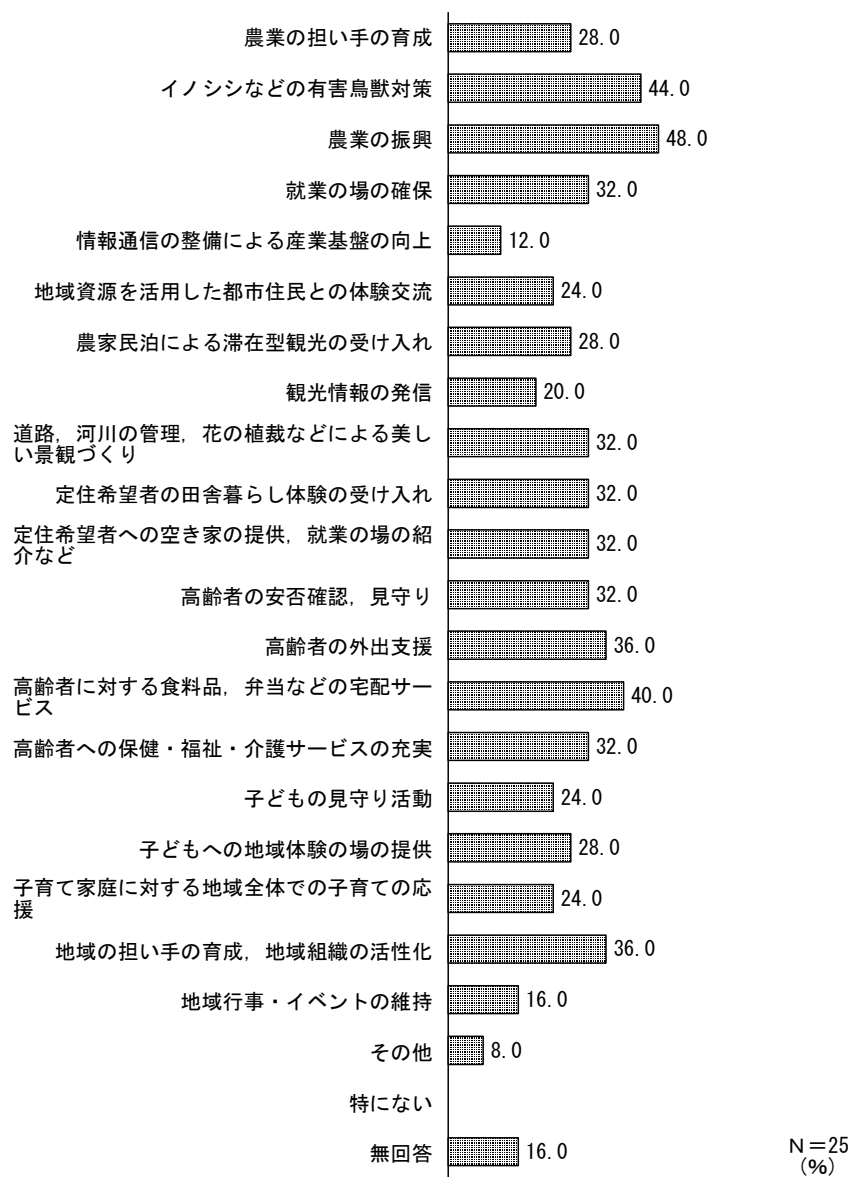


ウ 島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「農業の振興」を挙げた人が48.0%で最も割合が高く、次いで「イノシシなどの有害鳥獣対策」44.0%、「高齢者に対する食料品、弁当などの宅配サービス」40.0%、「高齢者の外出支援」及び「地域の担い手の育成、地域組織の活性化」36.0%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「就業の場の確保」、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」、「定住希望者の田舎暮らし体験の受け入れ」、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」、「高齢者の安否確認、見守り」及び「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」32.0%などの順になっています。

図28 島で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



3章 島の魅力・資源と問題点・課題

1 島の魅力・資源

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、島の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表5 島の魅力・資源

区 分	魅力・資源
立地条件	<ul style="list-style-type: none"> ・本土に近い島，広島空港・新幹線駅に近い島 ・三原，尾道，因島，生口島と連絡して比較的便利
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・気候温暖，風光明媚，夕日，朝日，静か，穏やか ・海・山・空がきれい，澄んだ空気，磯の香り ・大平山（360度の眺望），千畳敷，大平山登山道 ・中間農道からの眺望 ・大野浦自然海浜保全地区，柄鎌瀬戸自然海浜保全地区 ・大野浦海水浴場，長浜海岸（砂浜ウォーキング） ・アマモの自生，豊富な海草 ・四季折々の花，塔の峰の千本桜，佐木の桜 ・ウバメカシの巨木（小浦八幡宮） ・島の周囲が魚釣り場（タコ，ベラ，グチ，ハゼなど）
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・磨崖和霊石地蔵 ・神社仏閣（安楽寺，寺山の芋観音，比呂神社，小浦八幡宮，恵比寿神社，亀山八幡神社など） ・佐木島八十八か所 ・第五北川丸遭難者慰霊碑
観光・交流資源	<ul style="list-style-type: none"> ・「裸の島」のロケ地，宿弥島（世界的にも有名） ・港の丘公園 ・向田グラウンド・ゴルフ場 ・さぎしまセミナーハウス，旧三菱サギセミナーセンター ・トライアスロンさぎしま大会 ・みかんロード
農林地・農産物	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい柑橘類，日本一の生産量を誇るわけぎ，メロン ・みかんの花の香り，おいしいものが豊富（果物，野菜，魚など） ・島の自由市場 ・島のぱん屋さん ・遊休農地
島内組織・近隣関係・人材	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の連帯意識が強く，協力的な島 ・人情味のある結びつき ・特技を持つ人材（みかん，ワケギ，メロンなどの栽培のプロ，おどり（舞姫），うたいなど）が豊富な島

図29 島の魅力・資源



2 島の問題点・課題

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、島の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表6 島の問題点・課題

項目	問題点・課題
地域の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化・高齢化による島の活力の衰退 ・高齢者のみの島になる不安
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯の日常生活の不安（見守り、通院、買い物、食事、ゴミの搬出、災害時の支援など） ・自家用車を運転できない高齢者の交通手段がないこと ・自立した生活が難しくなった人の居住施設がないこと ・高齢者の交流、生きがい活動の場、就業の場の不足
若者の定住・子育て環境・U J Iターン	<p><若者の定住></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の就業の場、交流の場の不足 ・子どもの島内での様々な体験不足、親の意識の問題で若者が島外へ出て行くこと ・島を出て本土（三原市、尾道市、福山市など）に住む若者が多く、Uターンの可能性の検討
	<p><子育て環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの急速な減少に伴う交流機会の減少
	<p><U J Iターン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・U J Iターンへの取り組みが不十分 ・空き家を活用したU J Iターンへの取り組みの強化 ・島出身者との交流の確保（土地・建物の管理対策、島づくりの応援団）
農林業・農林地の管理	<p><農業・農地の管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシなどの有害鳥獣による農作物被害対策 ・担い手の高齢化・減少に伴う遊休農地の増加（農地管理が困難化する農家の大幅な増加への懸念） ・島の農業の周知による島外からの農業就業者、応援団の確保 ・特徴のある農産物の生産、加工体制の確立
	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海産物養殖の検討 ・遊休土地を活用した産業おこし
観光交流	<ul style="list-style-type: none"> ・島という立地条件、多様な資源の活用 ・環境を活かしたヘルス・スポーツツーリズムの検討 ・都市住民のニーズの高い島での体験メニューづくり ・おもてなし体制の強化（受入組織、宿泊施設など） ・トライアスロンさぎしま大会の維持
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・航路の利便性の改善（運航回数、運航時刻など） ・島内の医療サービスが脆弱、島外の医療機関への通院が負担であること ・救急艇の故障が多いこと、搬送に時間を要することによる緊急時の対応に不安があること ・小学校跡地利用の具体化 ・ゴミステーションの拡充
島内の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化・高齢化により、近隣関係が希薄になるおそれ ・町内会活動の担い手の減少、役員の負担の増大（若者の参加の不足、高齢者の身体能力の低下による参加の困難化） ・過疎化・高齢化による島行事の維持の困難化 ・活動資金の不足

4章 島の活性化計画

1 島の将来像

アンケート調査結果において、島の将来像として次の4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

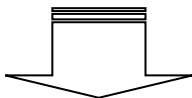
また、人口の将来見通しで示したように、今後一層高齢化・過疎化が進行し、高齢者のみの島になるおそれがあり、高齢者の安全安心な暮らしの確保と島内の若者の定住、子育て環境の充実、UJIターンの促進による次代を担う人材の確保に取り組む必要があります。

さらに、瀬戸内海の島という立地条件を活用し、多彩な資源・魅力を活かした島独自の豊かな生活スタイルに誇りを持つとともに、島外の方との活発な交流の推進に努める必要があります。

このため、アンケート調査結果や島の今後の動向を踏まえて、「**住んで良し、訪れて良し、健康と癒しの島 鷺浦町**」を島の将来像に掲げます。

<島の将来像に関する意見：10頁参照>

① 船便、島内バスなどの公共交通機関などが整い、快適に暮らせるまち	63.5%
② 誰もが健康でいきいき暮らせるまち	45.2%
③ みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	41.0%
④ 子育てがしやすく、若者が住みやすいまち	22.0%

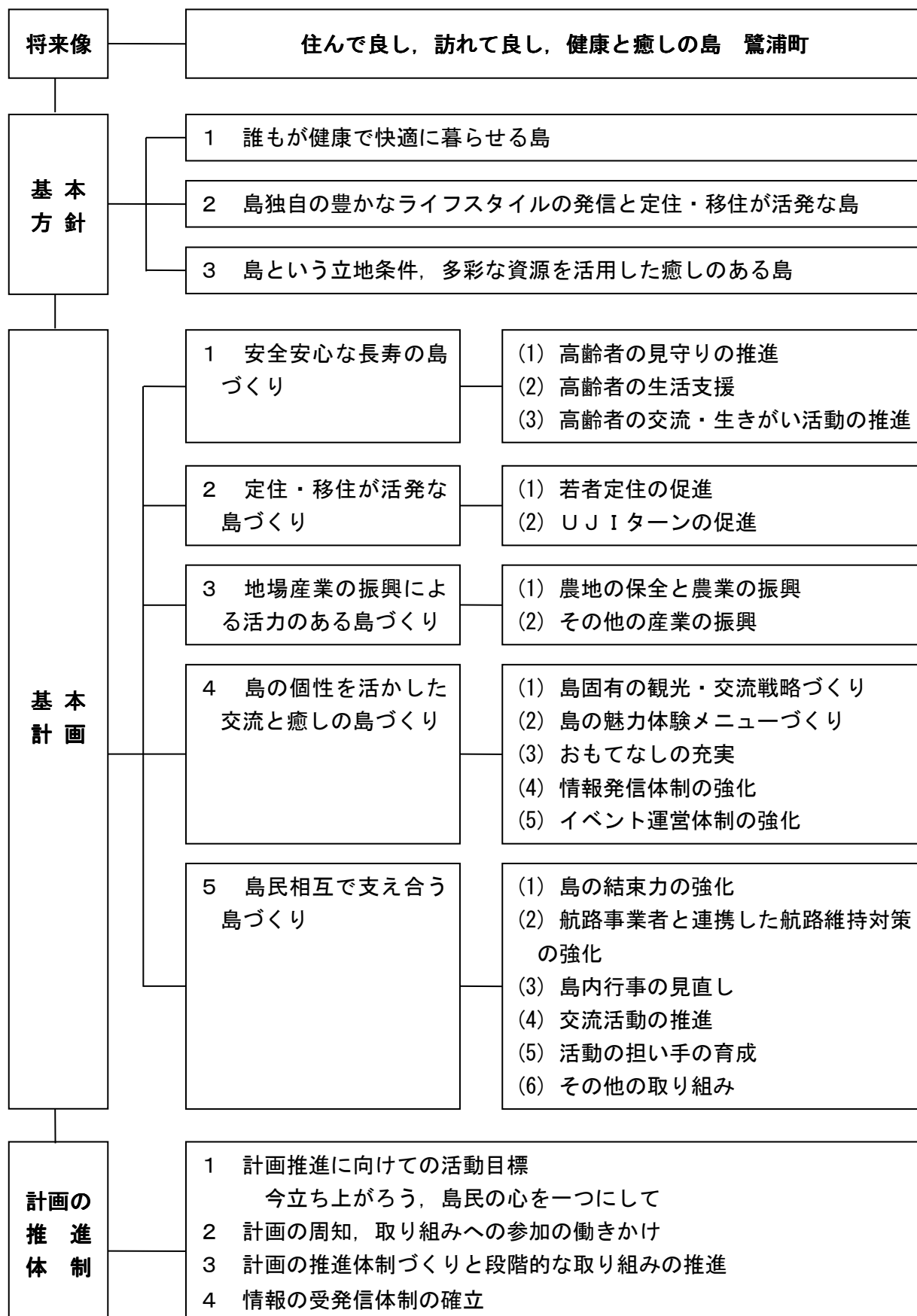


<島の将来像>

住んで良し、訪れて良し、健康と癒しの島 鷺浦町

島の将来像の実現に向けて、島づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

〈島づくりの体系〉



2 島づくりの基本方針

島の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 誰もが健康で快適に暮らせる島

- ・島民の支援のもとに、高齢者が安全安心に暮らせる健康長寿の島
- ・島全体での子育て支援により、島に愛着と誇りを持つ子どもが育つ島
- ・島の宝、若者が島の活動に積極的に参加する島
- ・同世代、世代間の交流が活発で、島民で支え合う人情味のある島

2 島独自の豊かなライフスタイルの発信と定住・移住が活発な島

- ・都会にはない島の豊かな暮らしに島民が自信と誇りを持つ島
(島に住む価値観の確認：里山資本主義など)
- ・島出身者との交流が活発で、協働で島づくりに取り組む島
(土地・建物の管理・活用に係る連携，Uターンしやすい環境づくり)
- ・島暮らしに興味のある人へ島独自の豊かなライフスタイル，島の魅力を発信する島

3 島という立地条件，多彩な資源を活用した癒しのある島

<島内産業>

- ・柑橘，わけぎ，メロンなどの特産物がブランド化され，農業で暮らせる島
- ・島の農業に関心を持ち，島外から農業の担い手が移住する島
- ・農林漁業資源を活かした新たな産業が生まれる島

<観光・交流>

- ・島固有の魅力を発信できる島（「裸の島」ロケ地，トライアスロンさぎしま大会など）
- ・豊かな自然環境，ゆったりとした時間の流れの中で，多様なヘルス・スポーツ，島体験により都市住民が癒される島
- ・島民との交流が忘れられないおもてなしの島

3 島づくりの基本計画

島の将来像及び基本方針を踏まえて、島づくりの基本計画として5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、ワークショップ（意見交換会）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 安全安心な長寿の島づくり

(1) 高齢者の見守りの推進

- ・高齢者見守り隊の設立
- ・見守りポット（湯沸かしポットからお湯を出すと名前が発信される）の導入と見守りポットの利用状況を一元的に管理できる仕組みづくり

(2) 高齢者の生活支援

ア 食の支援

- ・デイサービスで実施している配食サービスを、少し年齢を下げて実施することの検討
- ・一人暮らしの高齢者の食事（偏った食事）に問題があるので、島内配食サービスの提供
- ・高齢者が集まって昼食をとることができる食堂、サロンの設置

表7 具体的に取り組みたい事業

項目	内容
事業名	・高齢者の見守り・食の支援事業
連携団体	・女性会，社会福祉協議会，行政など
事業対象	・高齢者をはじめとする島民
事業内容	・高齢者に栄養バランスに配慮した食事の提供，安否確認，交流の場の提供 ・島内配食サービス ・島民誰もが集うことができる場（カフェ・サロン）づくり ・活動場所：調理場がある場所
事業資金	・島民有志の自己資金，島出身者の寄付 ・行政の補助金など
事業年次計画	平成26(2014)年度：準備組織の設立，準備作業（場所選定，事業計画，先進地視察，組織設立など） 平成27(2015)年度：高齢者に対する配食サービス，島民向けカフェの運営
具体化に向けての課題	・島民有志による準備組織の設立 ・活動場所の選定 ・準備作業に係る資金の確保

イ 高齢者に対する移送サービスの提供

- ・港までの交通手段に不便を感じている高齢者に対して、自宅と港の間を送迎する予約乗合車両の運行
- ・歩行の困難な高齢者に対して、自宅と三原市中心部の医療機関までの間を送迎する車両の運行

表8 具体的に取り組みたい事業

項目	内容
事業名	・高齢者ふれあい移送サービス事業
連携団体	・社会福祉協議会など
事業対象	・自家用車を運転できない高齢者など
事業内容	<p><準備作業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備組織の設立 ・高齢者のニーズ調査 ・予約受付体制、運行車両の確保 ・ボランティアの運転手の募集（ローテーションを組んで運行） <p><第1ステップ：予約乗合タクシーを島内で運行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅と港の間の送迎サービスの実施 <p><第2ステップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約乗合タクシーの運行が軌道に乗った段階で、三原市中心部の病院などへ送迎するサービスの実施（福祉有償運送）
事業資金	<ul style="list-style-type: none"> ・行政などからの運行車両の貸与 ・燃料代、ボランティアへの謝金などの経費は利用者負担
事業年次計画	<p>平成26(2014)年度：準備作業（高齢者ニーズ調査、運行体制の確立、運行車両の確保など）</p> <p>平成27(2015)年度：予約乗合タクシーの島内運行の実施</p> <p>平成28(2016)年度：三原市中心部の病院などへの送迎サービスの実施</p>
具体化に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在運行中のさぎしま循環バスとの調整 ・運行体制の確立（推進組織の設立、予約受付体制など）

ウ ゴミ搬出の支援

- ・高齢者向けのゴミの分別講習会の開催
- ・外出困難な高齢者のゴミ搬出の支援

エ 高齢者の安全安心な生活の支援

- ・災害時の支援体制の確立
- ・シルバーカーの安全な運転のための運転者講習会の開催

オ 高齢者居住施設の整備

- ・自立した生活が困難な高齢者のために、島民の支援を受けながら住むことができるグループホーム、ショートステイ施設の整備（社会福祉法人などの運営主体と島民が連携した体制づくり）

(3) 高齢者の交流・生きがい活動の推進

ア 交流の推進

- ・75歳以上の島民は半日遊ぶ気風の醸成
- ・ゲートボール場及びグラウンド・ゴルフ場に加え，気軽に集まり，話ができるサロンの設置
- ・空き家を借りて常設サロンの運営
(昼食提供の検討，世話人の確保，継続して運営するためのリーダーの育成など)

イ 身体能力に応じた就業の場の提供

- ・後期高齢者でも栽培できる農作物の導入
- ・農業生産法人と連携して，高齢者ができる軽作業の提供
- ・後期高齢者になっても農業，島内活動への関わりを通じて生涯現役で過ごせる仕組みづくり（生きがい活動，介護予防など）

2 定住・移住が活発な島づくり

(1) 若者定住の促進

ア 各自の子どもへの定住の働きかけ

- ・各自の子どもへ、定住することの働きかけ
- ・地域行事への参加，島の多様な体験の提供により，島に愛着と誇りを持つ子どもの育成

イ 就業の場の確保

- ・島で300～500万円の農業所得が見込まれる農業モデルを提案し，若者へ農業就業の働きかけ，農業研修の受入
- ・農業生産法人の担い手として若者の雇用
- ・通勤可能な就業の場の確保

ウ 婚活イベントの開催

- ・婚活イベントの開催：柑橘時期の11月（25～50才を対象，25～45組）
（みかん狩り，バーベキュー，みかんのお土産など）

(2) U J I ターンの促進

ア 空き家の活用

- ・空き家の実態調査（建物の状態を踏まえた管理・活用方策の検討）
- ・空き家所有者と調整し，賃貸，売買できる空き家の発掘
- ・賃貸，売買する空き家の荷物の預かり，処分の支援
- ・行政と連携し，空き家情報の発信の強化
- ・U J I ターン希望者に対する相談支援

イ I ターンの促進

- ・里山資本主義的な生活（金だけではない自然を相手にした心豊かな生活）に賛同する若者の増加に対して，お試し島暮らし体験（空き家活用）で受入（一週間程度生活）

ウ 島出身者との交流の推進

- ・リタイアUターンの促進（還暦を迎える人などの名簿の作成と交流の推進，Uターンの働きかけ）
- ・島出身の若者（三原市，尾道市，福山市など近くに住んでいる人）との交流とUターンの働きかけの推進
- ・島出身者で土地・建物を所有している人に，空き家，農地などの適正な管理の働きかけ（空き家，農地の放置の歯止め）

エ 情報発信の強化

- ・インターネットで島の魅力的な生活，空き家情報，就業情報などの発信の強化

3 地場産業の振興による活力のある島づくり

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・官民共同でのイノシシ被害防止対策の推進

イ 担い手の確保

- ・島内での農作業の助け合いの仕組みづくり
- ・農業生産法人を核とした農業の島内の担い手の集約，島内で一体的な農業（農業機械の購入，共同利用など）の推進
- ・農業生産法人などで農業に関心のある若者の受入（1年程度の研修），担い手農家としての育成
- ・島外への農業ボランティアの募集

ウ 農業の振興

(ア) 農業モデルの提案

- ・佐木島農業のブランド化，農業所得で生活できる農業モデルを提案（佐木島で農業所得300～500万円の農業モデルのPR）
- ・長野県の例を参考にする（高原野菜で若者の農業収入が1,500万円以上）

(イ) 農業の振興

- ・農産物（わけぎ，柑橘，メロンなど）のブランド化（島固有の農産物としてPR）
- ・わけぎ，柑橘，イチジクの乾燥加工，イノシシ肉の加工
- ・柑橘などを加工したジャム，お菓子づくり
- ・生産量が日本一のわけぎを活用した加工品づくり
- ・オリーブの新規導入，加工品開発の検討
- ・遊休農地を活用した柑橘などの観光農園の運営

(2) その他の産業の振興

- ・遊休土地を活用した太陽光発電，潮の干満を利用した発電

4 島の個性を活かした交流と癒しの島づくり

(1) 島固有の観光・交流戦略づくり

- ・フィルムコミッション戦略による島のブランド化（映画・ドラマ・アニメのロケ地としてPR）
- ・「裸の島」記念館の設置，宿禰島の再ブランド化
- ・ファミリー層を対象としたヘルス・スポーツツーリズムの推進（子ども向けで親が付いてくる取り組み）

(2) 島の魅力体験メニューづくり

ア トライアスロンさぎしま大会の維持・活性化

- ・島の一大イベントであるトライアスロンさぎしま大会の維持・活性化（町外の人と連携した運営体制の強化）
- ・トライアスロンさぎしま大会の開催に伴う経済効果の拡大の検討（参加者だけでなく応援団，観覧客の集客，おもてなしなど）

イ ヘルス・スポーツツーリズムの推進

- ・クロスカントリー，駅伝（子ども向け），100kmウォークなどの開催
- ・四季折々のイベント開催（マラソン，ウォーク，トライアスロン）
- ・海水浴場の活用

ウ 島の生活体験の提供

- ・魚釣り，潮干狩り，柑橘の収穫体験など

(3) おもてなしの充実

ア 観光・交流推進体制の確立

- ・観光・交流を推進する組織の確立（体験，食事，特産品販売，宿泊などの案内・受入）
- ・ボランティアガイドの充実

イ 島内送迎体制の検討

- ・スクールバスの土・日曜日，祝日での活用の検討（イベント，島内周遊の来訪客の送迎など）

ウ 宿泊施設の確保・活用

- ・ 来訪客が宿泊できる施設が少ないため、旧三菱サギセミナーセンターを活用した宿泊受け入れ体制の確立
- ・ 須ノ上セミナーハウスと連携した企業研修，スポーツ合宿の受入
- ・ 体験農家民泊（家業体験，共同調理）受入体制の整備

表9 具体的に取り組みたい事業

項目	内容
事業名	・ 来訪客に対する宿泊・飲食サービス提供事業
連携団体	・ 女性会，社会福祉協議会，三原市など
事業対象	・ 島出身者など島外からの来訪客
事業内容	・ 空き施設などを活用して，島出身者など島外からの来訪客に対する宿泊・飲食サービス・特産品販売など
事業資金	・ 島民有志の自己資金，島出身者の寄付 ・ 行政の補助金など
事業年次計画	平成26(2014)年度：準備作業（場所選定，事業計画，先進地視察，組織設立など） 平成27(2015)年度：高齢者の見守り・食の支援事業の実施 平成28(2016)年度：来訪客に対する宿泊・飲食サービス提供事業の実施
具体化に向けての課題	・ 島民有志による準備会組織の設立 ・ 準備作業に係る資金の確保

(4) 情報発信体制の強化

- ・ マスコミを巻き込んだ情報発信戦略の展開（マスコミが関心を持つ話題性のある情報の発信）
- ・ ターゲットを明確にした情報発信の強化
（誰に（家族，カップルなど），いつ（季節ごとの良さ），どのような（スポーツ，婚活イベントなど）ことを発信するか）

(5) イベント運営体制の強化

- ・ イベントスポンサーの募集（ゼッケンにスポンサー名，ドリンクの提供など），運営費の確保
- ・ 島内の担い手だけでなく島外の応援団を確保することによる島内負担を軽減した運営体制づくり

5 島民相互で支え合う島づくり

(1) 島の結束力の強化

- ・良好な近隣関係を基本としつつ、島全体の結束力の強化（区単位から島単位の取り組み）
- ・佐木島と小佐木島の交流の推進

(2) 航路事業者と連携した航路維持対策の強化

- ・町内会と航路事業者との定期的な協議，航路の維持，利用促進に向けた連携の強化

(3) 島内行事の見直し

- ・人口減少，高齢化が進行する中で，島民の負担にならないような島内行事の見直し（行事の単位を大きくする，一部行事の廃止など）の検討
- ・フリーマーケットの開催など，子ども・若者に魅力のある企画の検討

(4) 交流活動の推進

- ・鷺浦コミュニティセンターなどでの交流（趣味・教養，サークル活動など）活動の推進
- ・子どもを中心とした世代間交流の推進

(5) 活動の担い手の育成

- ・誰もが参加しやすい活動の場づくり（やる気のある人の参加）
- ・多くの人に参加し，一人ひとりの負担が少なくなる活動
- ・女性が活躍できる場づくり
- ・島民に適材適所で活動してもらうための人材バンクの設立

(6) その他の取り組み

- ・災害時の避難場所・避難経路の確保
- ・外灯の整備

4 計画の推進体制

(1) 計画推進に向けての活動目標

「鷺浦町活性化計画」の推進に向けて鷺浦町内会の活動目標を次のように掲げます。

今立ち上がろう，島民の心を一つにして

(2) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

「鷺浦町活性化計画」の周知，取り組みへの参加の働きかけを行います。

(3) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進組織づくり

- ・町内会及び町内各種団体の連携による計画の推進体制づくり
- ・プロジェクトチームの設立による計画の具体化の推進
- ・収益事業の受け皿となるNPO法人，町民出資の島づくり会社などの設立の検討

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（島の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みの推進

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，NPO法人，企業などとの連携の強化
- ・島出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援の活用
- ・講習会，研修会，先進地視察などの開催による人材の育成

(4) 情報の受発信体制の確立

ア 島内向けの情報受発信

- ・鷺浦町内会だよりの発行
- ・複数同一世帯には複数の配布物の配布
- ・若者世帯に対するインターネットを活用した情報の受発信

イ 島外向けの情報発信

- ・島を紹介するポータルサイト（佐木島・小佐木島を紹介する情報の入口となるインターネットのサイト）を立ち上げ，島に関係するホームページと連携したPRの推進
- ・島を紹介するホームページ開設の検討

資料 計画策定の経緯

計画策定は、次のような経緯で取り組みました。

日 時	委員会など	協議事項
平成25 (2013)年 9月24日	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について ・アンケート調査、ワークショップについて
10月31日	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査内容 ・アンケート調査の実施時期
11月12日～ 11月27日	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・島内住民（16歳以上） ・小学生（4～6年生）・中学生 ・島外に住み、島で働いている方
11月21日	第1回鷺浦町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・島で困っていることとその解決のアイデアについて
12月20日	第2回鷺浦町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・島の魅力・資源と活用のアイデアについて ・島の将来像、今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと
平成26 (2014)年 1月20日	第3回鷺浦町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の報告 ・テーマ別の具体的な取り組みについて
2月14日	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案の協議、修正
3月13日	第4回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の協議、承認